

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子」  
 【知】自ら学び、考え高め合い、生きてはたらく確かな学力を身につける太尾の子。  
 【徳】自己肯定感と思いやりの心をもとに、豊かな心を育み、よりよく行動できる太尾の子。  
 【体】健やかな体をつくり、健康で安全に生きる力を育む太尾の子。  
 【公】太尾のまちに学び、まちを愛し、まちに生きる太尾の子。  
 【開】太尾のまちの、横浜の、持続可能な社会の未来をひらく太尾の子。

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

資質・能力	具体化した資質・能力
〈コミュニケーションする力〉 〈探求する力〉 〈挑戦する力〉	【個別支援級】 ・感じたことを言葉にする力 ・問題を理解する力 ・身近な事象に積極的に関わる態度 ・相手の思いを受け止めて聞く力 ・問題を発見する力 ・他者を理解する態度、自己を理解する力 【1・2学年】 【3・4学年】 ・伝える内容を明確にする力 ・試行錯誤する力 ・試行するための言葉の力 【5・6学年】 ・伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ・問題解決の過程を振り返る力 ・考えを出し合って新提案する力

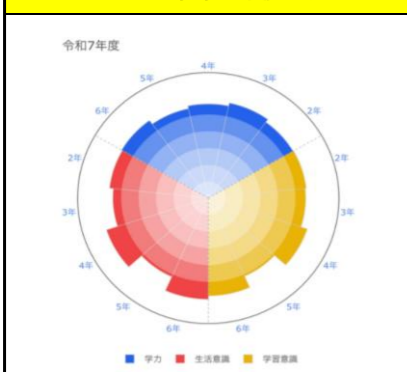
中期取組目標

「ともに豊かに生きることを学ぶ学校」～Saiety5.0社会の「未来」に生きる子どもに必要な力を～  
 【豊かに学び】  
 1年目：対話を重視した授業を通じて、子どもたちが学びの楽しさを実感できる環境を整えます。具体的には、問題解決やプロジェクトベースの学習を取り入れ、自発的な学びを促します。  
 2年目：子どもたちの表現力とコミュニケーション能力の向上を目指し、プレゼンテーションやディスカッションの機会を増やします。  
 3年目：対話を通じて自分の考えを深め、他者との学び合いを通して知識を広げる能力を育てます。  
 【ともに未来をひらく】  
 全期間：地域社会との連携を強化し、地域の人々との交流を通じて、子どもたちが社会への帰属意識と責任感を持つよう導きます。学校行事や日常の授業で協働の場を設けます。特に1年目は50周年記念の年にも当たり、地域の歴史や文化に触れる機会を提供し、子どもたちがルーツや未来について考えるきっかけを作ります。  
 【太尾の子】  
 全期間：様々な人と関わることにより「共に豊かに生きようとする存在意義」を分かち合いより市民となる心や姿勢を育てます。特に、データの活用を図り、人の営みを見える化し、主観的なことをより客観的にとらえることを進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業づくりを推進する。 ②多様な「人・もの・こと」と関わる学びを視点にした子どもが主体的に取り組み学びを構築する。 ③カリキュラムマネジメントを推進し、指導と評価の一体化をより図り、本校ならではの教育課程の創造する。
担当	確かな学力部会

学力向上に関わる本校の状況



上記の調査結果より、学力においては、どの学年も国語・社会・算数・理科・外国語すべての教科で横浜市全体の正答率より上回った。特に、3年生は国語・算数ともに大きく上回った。どの学年も基礎的な学力が定着していることがうかがえる。一方で、正答率は市平均を上回っているものの、国語では学年が上がるにつれて学力を伸ばした児童の割合が平均を下回った。  
 学習に主体的に取り組んでいけるよう導入の工夫をしたり、協働しながら自分の課題を正しく見極め、それを解決していくために課題別学習など、適した学習を生かしたりして、一人ひとりが力の「伸び」を実感できるよう支援していきたい。

今年度の目標

すべての子どもが主体的に取り組む学習活動を創造し、自分で考え、話し合い、課題を解決する力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①体験を通して考えた自分の考えを話したり、書いたりできるようにする。また相手の思いを受け止め友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、考えを深められるようにする。 ②地域の方や他学年とかかわる場を設けることで、人や場所への愛着を高められるように指導する。 ③既習の学習事項や自らの経験などを生かして、自分で考え課題解決に向けていろいろ試すことができるようにする。 ④話し合いや子ども同士で学び合う時間を設けることで、自分の考えを明確にし、相手の意図や目的に応じて言葉を選んで表現できるようにする。 ⑤資料を効果的に活用し、考える力、調べる力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようになる。 ⑥様々な事象を広い視野で見たり、推論したりしながら、問題解決のために追究する学びを大切にする。 ⑦個に応じた学習や小グループでの学習を行い、基礎的な力を伸ばすと共に、自分の思いや考えをもてるよう支援する。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①どの子どもにも自己肯定感と思いやりの心、規範意識を高めていく。 ②道徳科の学びを充実させ、様々な価値観を互いに理解し合ったり、受け入れたりすることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ③相手意識をもって関わることの大切さを感じ取ることができるようにする。
担当	豊かな心部会

豊かな心に関わる本校の状況

学校生活は落ち着きがあり、基本的な生活習慣が身につけている児童が多い。  
 自己肯定感については、これまでのアンケート結果から見てみると高くはない。学習の理解度は高い方であるにも関わらず、自分に対して自信がもてていないという実態がある。そこで、子どもたち一人ひとりが、自信をもって自分の良さを表出したり発揮したりしていけるように、指導・支援を重ねていくことが大切であると考える。  
 また工夫を講じながら体験学習や異学年交流等の充実を目指す。

今年度の目標

①どの子どもにも自己肯定感と思いやりの心、規範意識を高めていく。  
 ②道徳科の学びを充実させ、様々な価値観を互いに理解し合ったり、受け入れたりすることの大切さを感じ取ることができるようにする。

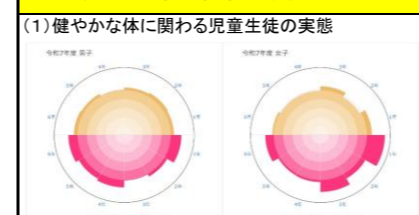
目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	【年間を通した児童理解】 ・毎月実施する児童理解研修及び学校生活アンケートなどを通して児童理解に努め、一人ひとりの自己肯定感を高めていけるよう指導・支援にあたる。 【道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育】 ・各学年(学級)で、学校行事や各学習と道徳の指導計画との関連を見直し、年間を通して落ちなく効果的に道徳の学習を展開していけるようにする。 【異学年交流の充実】 ・低学年は「上級生に対して礼儀を大切に」、高学年は「自分も相手も楽しめるような計画を立て、優しく関わる」ことを大切にしよう、児童にしっかりと指導をすることを通して、望ましい関わりができるようにする。  上記に示したこと及び教育活動全体を通して、子どもたちに自己有用感・自己肯定感を育むと共に、相手の気持ちを理解しようとする心情を育てる。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①心身ともに健康的な体づくり、基本的な生活習慣の定着を図る。 ②子どもがアイディアを運動会などの体育的行事や集会で取り入れ、自ら健康でたくましく体づくりをすることを重視する。 ③食育を教科指導に関連して位置づけ、担任と養護教諭、栄養教諭との連携で推進する。
担当	健やかな体部会

健やかな体に関わる本校の状況



体力調査チャートを見ると、男子は全学年横浜市平均より上回っているが、女子は昨年度同様半分の学年が平均を下回っている状況である。男子に比べ女子の方が学年によって能力値に差が見られる。種目別に見てみると、立ち幅とびの結果が多くの学年で低いのが目立っていた。今年度は校庭使用制限があり、幅跳びの学習ができないため、来年度以降、より幅跳びの運動特性に触れた学習を進めて行く必要がある。  
 一方で、運動に対する意識は全学年が横浜市平均に比べても高い状況にある。学校内で、走ろう会へ向けた取組や長縄の練習機会を多くしていくことで体力の向上を図っていく。今後も、運動やスポーツの楽しさ、心地よさ、仲間との関わりを重視し、運動を多様に楽しむことができる授業づくりを目指していく。また、規則正しい生活ができるよう保健学習や保健活動の充実も継続して行う必要がある。

今年度の目標

児童の健康課題を把握し、学校教育全体を通じて、健康についての正しい知識を身につけ、心身共に健康で安全な活力ある生活を送るための基盤となる実践力や体力向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	【体育科・保健体育科での取組】 ・遊びや運動経験が少ないという実態から、6年間の体育学習を通して、様々な運動(動き)を低学年から経験させ、運動の楽しさを味わったり動きの特性を身につけたりする。 ・保健の学習を通して、健康的な体をつくるための基本的な生活習慣について学習する。 【特別活動での取組】 ・運動会に向けて、友達との関わりを大切にしながら指導し、そこで培った資質・能力をその後の活動に発展させていく。 ・学校保健委員会では、テレビやパソコンなどの電子機器が目の健康に与える影響を知り、自発的に目によい生活について学ぶなど、児童が主体的に取り組めるようなテーマを設定して活動を行う。 【体力アップ大作戦】 ・運動委員会の児童を中心として、運動集会や運動機会確保のための取り組みを行い、体力向上を目指す。
下半期	